

平成26年12月12日

相模原市発表資料

(神奈川県、茅ヶ崎市、
相模原市、海老名市、
座間市、寒川町同時発表)

相模線複線化等促進期成同盟会の要望活動について

本日、相模線の沿線自治体及び経済団体により組織する相模線複線化等促進期成同盟会から東日本旅客鉄道株式会社執行役員横浜支社長に、相模線複線化の早期実現に向けた要望を行いました。

- 1 要望日 平成26年12月12日(金)
- 2 要望先 平野 邦彦 東日本旅客鉄道株式会社執行役員横浜支社長
- 3 要望者 相模線複線化等促進期成同盟会

※当日の出席者

【名誉会長】神奈川県知事(同県副知事代理出席)	吉川 伸治
【会長】相模原市長(同市副市長代理出席)	小星 敏行
【副会長】茅ヶ崎市長	服部 信明
【副会長】海老名市長	内野 優
【副会長】相模原商工会議所会頭(同会副会頭代理出席)	原 清助
【監事】寒川町長	木村 俊雄
【監事】座間市長(同市都市部長代理出席)	関田 好光

- 4 要望内容
別紙要望書のとおり

- 5 主なやり取り

同盟会は、相模線複線化の早期実現のため、沿線自治体が取り組んでいくまちづくりによる人口集積等の需要喚起施策について説明し、東日本旅客鉄道株式会社に対して、利用促進方策や輸送サービス改善の検討を要望しました。

これに対し、同社からは、複線化は沿線の開発状況や利用者の状況を見極めつつ検討する長期的な課題であるため、当面は既存設備の改良や改修等により輸送改善を目指したいとの回答がありました。

<担当課>

交通政策課

TEL : 042-769-8249

相模線複線化の早期実現に関する要望書

平素から、相模線の整備や地域の発展に対しまして格別の御高配を賜り、心から感謝申し上げます。

相模線は、東海道本線や横浜線など東京や横浜方面に向かう5つの路線と接続し、神奈川県の中核部を南北に縦断する都市圏の公共交通として、重要な役割を担っている路線です。

しかしながら、単線であるため、運行本数の制約や列車の行違いによる所要時間の増加など、周辺の鉄道と比較して十分なサービスが確保されておらず、駅舎等につきましても整備が遅れており、利用者からはこれらの改善が強く望まれております。

このような声を受け、本同盟会の構成員である神奈川県や沿線市町・経済団体では、貴社に御協力を頂きながら、段階的整備として、駅行違い施設整備等の検討を行うとともに、駅及び周辺の交通改善を図るため、平成13年度に「交通改善プログラム」を策定し、複線化に向けた施策に積極的に取り組んでまいりました。

一方、神奈川県においては、東海道新幹線新駅とリニア中央新幹線県内駅を設置して、全国との交流連携の窓口となる二つのゲートを形成するとともに、これらをつなぐ南北方向の交通軸の一つとして相模線の輸送力を強化することとしております。

こうした中、リニア中央新幹線につきましては、橋本駅付近に神奈川県駅が設置されることになっており、また、本年10月には工事実施計画が認可されるなど、工事着手に向けた手続きが進んでおります。これに伴い、倉見駅付近への東海道新幹線新駅設置の可能性も高まっており、二つのゲートをつなぐ相模線の複線化に対する期待はますます大きくなっております。

さらに、首都圏中央連絡自動車道の一部であるさがみ縦貫道路の全線開通が目前に迫り、相模線沿線の土地利用の促進や企業の集積などが図られることが期待されており、相模線の需要に対し大きな起爆剤となることが想定されます。

本同盟会としましては、こうした相模線を取り巻く環境の変化を踏まえ、平成25年度末に「新たな相模線交通改善プログラム」を策定し、今後、このプログラムに基づき、複線化の早期実現が図られるよう、各自治体のまちづくりによる人口集積を始めとし、駅施設の利便性向上や地域の魅力創出等の需要喚起の施策に、より一層、積極的に取り組んでまいります。

つきましては、貴社におかれましても、このような同盟会の取組をご理解いただき、神奈川県や沿線の市町・経済団体とともに、利用促進策などについての検討や、行違い施設整備等による相模線の輸送サービス改善を進められますようお願いするとともに、沿線地域住民の切なる願いを叶えるべく、複線化の早期実現に向けた取組の推進を要望いたします。

平成26年12月12日

相模線複線化等促進期成同盟会

会長 相模原市長 加山 俊夫